

が重視されている。そのためには、個々の学習者の形成的評価とともに、プログラム修了時に修得すべき「コンピテンシー」を適切に評価することが重要である。一方、次代を担う医療人の育成には、「良き医療人としての能力と資質を備えた人材」をアドミッション・ポリシーに基づき選抜することも大切な医学教育の責務である。本委員会では、第18期の①入学者選抜委員会、②学習者評価委員会、③国家試験・共用試験委員会が「学習者評価」という医学教育の観点から統合された新委員会である。医学教育における信頼性・妥当性の高い学習者評価の実現を目指し、医師の適格性を持つ医学部入学者の選抜、社会的責任の重い国家試験・共用試験、グローバルスタンダードに適う臨床実習のパフォーマンス評価などについて検討し、その課題と対策について情報を共有するワークショップ、シンポジウムなどを企画・開催した。

本委員会主催のシンポジウム「学習者評価のTopics & Tips」(2017年7月1日)では、「新テストの内容及び準備状況」「医師国家試験の現状と動向」「コンピテンシー基盤型教育における学習者評価：評価の妥当性と卒業生の質保証」とい

う医学教育の学習者評価における最新の話題と重要な課題について、講演を頂き、情報共有と意見交換を行った。第49回日本医学教育学会札幌大会ワークショップ「医学教育における3大試験(high-stakes examinations)はこのままでよいのか? ～その現状と課題～」(2017年8月18日)では、「医学部の入学者選抜に何がもめられているのか? : 現状の課題と対策、今後の方向性」「共用試験医学系CBTにおける基準集団変更における対応とその後の成績評価方法の特色」「医師国家試験の改革と大学の役割 (Post-CC OSCEなど技能評価や態度教育の取組)」をテーマとした講演と議論を行った。東京大学大学院医学教育国際研究センター、教育研究委員会との共催で「一般化可能性理論」に関する医学教育学講演(2017年11月19日)を実施した。今後も医学教育の改善に不可欠な、信頼性・妥当性ある学習者評価を実現するための企画・活動を進めていく。

副委員長：田川まさみ、委員：井上浩義、浦野哲哉、大滝純司、北村 聖、神代龍吉、椎橋 実智男、柴原真知子、仁田善雄、藤田博一、藤本眞一、森茂久、吉田素文

*¹ Learner Assessment Committee

*² Michito Hirakata

8. プロフェッショナリズム・行動科学委員会^{*1}

宮田 靖志^{*2} (委員長・愛知医科大学医学部地域医療教育学寄付講座)

プロフェッショナリズムは平成28年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラム(コアカリ)に、また、行動科学は医学教育分野別評価基準に明記された。行動科学に関する記述は、人の行動と心理として、コアカリにも記載されている。これに伴い、これらをどのように教育するのかが喫緊の課題となっている。しかし、両者ともその概

念についてコンセンサスは得られておらず、医学教育者の間で混乱が生じているのが現状である。今期の本委員会では、これらの概念整理とともにその教育方略を集積することを目標としている。そのために、プロフェッショナリズムについては、ワークショップ、シンポジウムを開催して、共感涵養、向上心的目標を目指す方法、アンプロ